

キートンの月ロケット (1945)

EL MODERNO BABA AZUL
BOOM IN THE MOON

メディア 映画

ジャンル コメディ

製作国 メキシコ

色彩 B&W

時間 70分

公開情報 劇場未公開・ビデオ発売

【解説】

後に「三銃士」、「四銃士」や「スーパーマン」シリーズをプロデュースするアレクサンダー・サルキンドが、メキシコで作ったキートン主演映画で、日本未公開作。いかにも安上がりな特撮がご愛敬だが、そこそこに楽しめる。轟沈した戦艦の乗組員のキートンは、飛行機が落とした救命艇で流され、日本だと思って漂着した場所がメキシコだった。一人勝手にホールド・アップで村民に囲まれ、捕虜となろうとするが言葉が通じず、折しもアメリカから報告された、逃亡中の連続少女殺人犯“青髭”と信じ込まれる。そこに処刑も間近の彼を“モルモット”にしようと企む、月ロケット計画の立案者ハーディング博士とその姪ロザリーは、翌日に控えた打ち上げに間に合わせようと同房の囚人と共に彼を誘惑させる。手違いでロザリーも乗り込んで“発射”となるが、結局ロケットは軌道に乗らず地球を周回し、打ち上げ場所からほど近いメキシコ市郊外に落ち、三人の乗組員はしばし、そこを月世界と勘違いする。笑いはまんべんなく振り撒かれ、まず、牢獄でのベッドを巡る争いや、ひげ剃りの際の“人間椅子”のギャグ、そして、連れ出されてのノロマな馬にまつわるギャグ（小男のキートンは馬に乗るのに苦労し、ついたての上から飛び乗ると、牛でロデオとなるのがおかしい）、後は“月だと思い込み”ギャグと大まかに三段に分かれる。ラストが最も成功しており、三人が揃って着る“ムーン・スーツ”なる魔術師の衣装めいた扮装で異常者扱いされるくだり、無重力のつもりで犯す失敗が、単純ながら笑える。とってつけたようなオチーキートンらしい“はぐらかし”ではあるのだがーがいま二つ決まらないが、彼のキャリアを傷つけるものではない小佳作。

【クレジット】

監督 ハイメ・サルヴァドール

製作 アレクサンダー・サルキンド Alexander Salkind

脚本 ヴィクトル・トリバス

ハイメ・サルヴァドール

出演 バスター・キートン Buster Keaton

アンジェル・ブラッサ

ヴァージニア・セレット